

## ( 2 ) 月別気象概況 ( 福岡管区気象台 )

### 1月の気象概況

#### 1月上旬：前半は晴れ、後半は曇りや雨、気温がかなり高い

上旬の前半は大陸の高気圧に覆われて晴れの日が多く、後半は低気圧や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。9日から10日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため県内各地で13～25mmの雨が降った。気温は旬を通して平年より高く経過した。特に2日と6日は南西の風が吹いたため気温が上昇し、各地とも2日は3月中旬から4月中旬並の気温、6日は3月下旬から4月下旬並の気温となった。県内各地の旬平均気温は平年より2.1～3.0 高く、旬降水量は14～30mm ( 平年比54～176% ) であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

#### 1月中旬：曇りや雨の日が多く、18日までは3月上旬から中旬並の気温、終わりは寒気が流れ込む

中旬は大陸の高気圧の張り出しが弱く、気圧の谷が九州付近を短い周期で通過したため曇りや雨の日が多かった。12日から13日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で9～19mmの雨が降った。旬の終わりは冬型気圧配置となり強い寒気が流れ込んだため、各地で雪やみぞれが降った。

20日は行橋で10cmの積雪を観測した。気温は、11日から18日までは各地とも平年より2～5も高く3月上旬から中旬並で経過したが、20日は寒気が流れ込んだため平年より低かった。県内各地の旬平均気温は平年より2.3～3.2 高く、旬降水量は14～41mm ( 平年比56～128% ) であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は平年並であった。

#### 1月下旬：気温の変動が大きかった、27日は行橋で12cm、添田で11cmの積雪

下旬の前半は低気圧や前線の影響で雨の日が多く、後半は冬型気圧配置が続いたため曇りや雪の日が多かった。22日から24日にかけては低気圧が対馬海峡を通過し、寒冷前線が九州を南下したため県内各地で15～38mmの雨が降った。25日から27日にかけては冬型気圧配置となり寒気が流れ込んだため、県内各地で1～36mmの雨が降った。特に27日は強い寒気が流れ込んだため、行橋で12cm、添田で11cm、飯塚で6cm、宗像と甘木で2cmの積雪を観測した。気温は、23日から24日は平年より3～4 も高かったが、26日から27日は平年より2～3 低くなるなど変動が大きかった。県内各地の旬平均気温は平年差 - 0.5～+0.5 で、旬降水量は29～64mm ( 平年比164～255% ) と多かった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間も平年並であった。

福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量と日照時間は平年並であった。

## 2月の気象概況

### 2月上旬：曇りや雨の日が多い、8日は強い寒気が流れ込み強風を伴って雪が降った

上旬は気圧の谷が短い周期で通過したため、曇りや雨の日が多かった。5日から6日にかけては低気圧が対馬海峡と九州の南海上をそれぞれ通過したため、県内各地で7～25mmの雨が降った。8日は強い冬型気圧配置となり強い寒気が流れ込んだため、各地で強風を伴って雪が降った。8日は飯塚と添田で1cm、9日は添田と甘木で1cmの積雪を観測した。旬の終わりは冬型気圧配置が緩み、高気圧に覆われて晴れた。気温は、1日と旬の終わりは寒気が流れ込んだため平年より低かったが、3日から7日にかけては平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年差 - 0.8～ + 0.6 で、旬降水量は9～30mm（平年比49～173%）であった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間とも平年並であった。

### 2月中旬：14日までは晴れて暖かく、後半は寒い日が続いた

中旬の初めと18日は移動性高気圧に覆われて晴れたが、14日から17日にかけては冬型気圧配置が続き、各地で強風を伴って雪や雨が降った。19日から20日にかけては低気圧が九州南岸を通過した後、発達しながら東北東に進み、大陸の高気圧が張り出して寒気が流れ込んだため、県内各地で9～24mmの雨が降った。気温は、11日から14日までは平年より1～2 高かったが、15日から19日までは平年より2～3 低い日が続いた。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.9 低く、旬降水量は9～25mm（平年比26～60%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はやや少なく、日照時間はやや多かった。

### 2月下旬：晴れの日が多く、少雨

下旬は冬型気圧配置となったがすぐに解消し、移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。26日は上空に寒気を伴った低気圧が朝鮮半島を通過したため、多い所で4mmの雨が降った。気温は、寒気が流れ込んだ影響で、各地とも旬を通して平年より低く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より1.0～2.8 低く、旬降水量は0～4mm（平年比0～11%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間はやや多かった。

福岡の月の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

## 3月の気象概況

**3月上旬：晴れの日が多く、前半は気温が高く後半は寒の戻り、3日は福岡で最小湿度11%を記録**

上旬は移動性高気圧や大陸高気圧に覆われて晴れの日が多かった。2日は福岡で今年初めての黄砂を観測した。3日は移動性高気圧の後面となり、暖かい南東の風が吹いたため気温が上昇し、黒木で18.5 を観測するなど各地で4月上・中旬並の陽気となった。同日、福岡では最小湿度が11%となり、1950年の統計開始以来の第1位を記録した。4日は低気圧が対馬海峡を通過し寒冷前線が南下したため、県内各地で16～32mmの雨が降った。8日は冬型気圧配置となり寒気が流れ込んだため日中の気温が上がらず、最高気温が太宰府で6.9 など各地で10 を下回り、真冬並の寒さとなった。県内各地の旬平均気温は平年より0.1～1.3 高く、旬降水量は18～32mm（平年比36～78%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

### 3月中旬：天気は周期的に変化した

中旬の天気は周期的に変化した。移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。11日から12日にかけては低気圧が九州の南海上を通過したため、県内各地で14～23mmの雨が降った。15日から16日にかけては東シナ海の低気圧が発達しながら九州北部を通過したため、県内各地で9～41mmの雨が降った。19日は低気圧が発達しながら九州の南海上を通過したため、県内各地で4～10mmの雨が降った。平均気温は初め平年より低かったが、その後はほぼ平年並で経過し、最高気温は初め平年より低かったが、その後は平年より高く経過した。14日、15日、18日の最低気温は、放射冷却のため氷点下となった所があった。県内各地の旬平均気温は平年差 - 1.0～+0.1 で、旬降水量は32～69mm（平年比71～108%）であった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間はやや多かった。

### 3月下旬：晴れの日が多い、25日は福岡でソメイヨシノ開花

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。23日は低気圧が発達しながら九州北部を通過したため、県内各地で22～36mmのまとまった雨が降った。28日は朝鮮半島北部にある発達中の低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を通過したため、大気の状態が不安定となり雷やひょうを伴って県内各地で9～31mmの雨が降った。31日は寒冷前線が九州北部を通過したため、県内各地で2～13mmの雨が降った。気温は、24日から25日にかけてと29日は平年よりやや低かったが、その他の日は平年より高く経過した。27日は暖かい南よりの風が吹いたため気温が上昇し、前原、福岡、甘木では最高気温が20 を上回り、4月下旬から5月上旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年差 - 1.0～+1.0 で、旬降水量は36～66mm（平年比70～118%）であった。

生物季節観測では、25日に福岡でソメイヨシノの開花（平年より3日早く）を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量と日照時間はやや多かった。

福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

## 4月の気象概況

### 4月上旬：晴れの日が多い、2日は福岡でソメイヨシノ満開

上旬は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。4日から5日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で14～22mmの雨が降った。10日は低気圧が九州南岸を通過し、日本海の低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を通過したため、県内各地で1～17mmの雨が降った。7日と9日は高気圧に覆われて晴れたため気温が上昇し、各地で最高気温が20℃を上回り5月上旬並の陽気となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.0～1.0℃高く、旬降水量は15～37mm（平年比27～65%）と少なかった。

生物季節観測では、2日に福岡でソメイヨシノの満開（平年より2日早い）を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

### 4月中旬：晴れの日が多い、今年初めての夏日となる13日は福岡、14日は行橋

中旬は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。福岡では11日から14日まで4日連続して黄砂を観測した。15日から16日にかけては低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で1～10mmの雨が降った。19日から20日にかけては低気圧が朝鮮半島南岸を通過したため、県内各地で4～32mmの雨が降った。この旬の気温は変動が大きかった。13日から14日にかけてと18日は強い日射の影響で気温が上昇し、日平均気温は平年より2～3℃高くなり5月上旬並の陽気となった。13日は福岡で、14日は行橋で今年初めて日最高気温が25℃以上の夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年差 -0.5～+1.7℃で、旬降水量は9～40mm（平年比21～48%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はやや少なく、日照時間はやや多かった。

### 4月下旬：天気は周期変化、25日から26日にかけてまとまった雨

下旬の天気は周期的に変化した。22日から24日にかけてと28日から29日にかけては移動性高気圧に覆われて晴れた。21日は低気圧が九州南岸を通過したため、県内各地で1～9mmの雨が降った。25日から26日にかけては低気圧が対馬海峡と九州南岸をそれぞれ通過したため、県内各地で28～88mmのまとまった雨が降った。30日は低気圧が九州南海上を通過したため、県内各地で4～11mmの雨が降った。平均気温は、初めは平年より高かったが、23日以降は平年より低く経過した。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～2.1℃低く、旬降水量は34～98mm（平年比115～286%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はやや多い、日照時間はやや多かった。

福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや少なく、日照時間はかなり多かった。

## 5月の気象概況

### 5月上旬：高気圧に覆われて晴天が続き、少雨

上旬は移動性高気圧に覆われて安定した晴れの日が続いた。このため旬の日照時間が平年よりかなり多かった。9日は強い日射のため甘木では日最高気温が30℃を上回り、今年初めての真夏日となった。10日は黄海の低気圧から九州西海上に伸びる寒冷前線が接近した。県内各地の旬平均気温は平年より

0.1～1.1℃高く、旬降水量は0～6mm（平年比0～12%）とかなり少なく、県内10か所の観測所では1mm以上の雨を観測しなかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

### 5月中旬：天気は周期変化、20日は筑豊・北九州地方で降ひょう

中旬の天気は短い周期で変化した。11日は日本海から南に伸びる寒冷前線が九州を通過したため、県内各地で6～19mmの雨が降った。13日は上空に寒気を伴った低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で1～8mmの雨が降った。16日から17日にかけては東西に伸びる前線が九州南岸に停滞したため、県内各地で4～16mmの雨が降った。20日は日本海西部にある上空に寒気を伴った低気圧の影響で大気の状態が不安定となり、筑豊・北九州地方などでは雷を伴ってひょうが降った。嘉穂町では同日午後1時半過ぎ最大4cmのひょうが降り、ナシ、リンゴ、カキなどの果樹に被害が出た。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.1℃低く、旬降水量は16～47mm（平年比19～53%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや低く、降水量と日照時間はやや少なかった。

5月下旬：前半は晴れ、24日と25日は真夏日、26日から27日にかけてと終わりはまとまった雨

### 九州北部地方は26日頃梅雨入り

下旬の前半は移動性高気圧に覆われて晴れの日が続いた。26日から27日にかけては低気圧が発達しながら朝鮮半島を通過したため、南から暖かい湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となり、県内各地で26～71mmのまとまった雨が降った。福岡管区气象台は「九州北部地方は5月26日頃に梅雨入りしたと見られる」と発表した。30日から31日にかけては沖縄付近に停滞している前線がゆっくり北上し、東シナ海で発生した低気圧が対馬海峡を通過したため、県内各地で31～99mmのまとまった雨が降った。24日と25日は強い日射のため気温が上昇し、県内各地で日最高気温が30℃以上の真夏日となった。特に25日は日最高気温が久留米で35.8℃、甘木で35.1℃、黒木で34.7℃など観測し、8つの観測所で統計開始以来の5月の日最高気温の高い方からの第1位を記録した。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～2.0℃高く、旬降水量は78～145mm（平年比237～373%）と多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量は平年並、日照時間はやや多かった。

## 6月の気象概況

### 6月上旬：曇りの日が多い

上旬は梅雨前線の影響で曇りの日が多かった。中頃は梅雨前線が九州の南海上に南下し、移動性高気圧に覆われて晴れた。3日は九州南部付近に停滞する梅雨前線の影響で県内各地で2～72mmの雨が降った。7日は強い日射のため、日最高気温が30℃を上回り真夏日となった所が多かった。8日から9日にかけては梅雨前線上に発生した低気圧が対馬海峡付近を通過したため、県内各地で16～57mmのまとまった雨が降った。その後、梅雨前線は九州南岸から九州南海上に南下した。県内各地の旬平均気温は平年差 - 0.9～0.1℃で平年より低い所が多かった。旬降水量は25～131mm（平年比52～159%）であった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間はやや少なかった。

### 6月中旬：曇りの日が多い

中旬は梅雨前線の影響で曇りの日が多かった。13日から15日にかけては高気圧に覆われて晴れた。

15日は強い日射のため日最高気温が30℃を上回り真夏日となった所が多かった。17日から18日にかけては東シナ海の梅雨前線上に低気圧が発生し、九州北部を通過したため県内各地で29～98mmのまとまった雨が降った。20日は大陸東岸の梅雨前線上に発生した低気圧が接近したため、県内各地で2～28mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年差 - 0.5～+0.3℃で、旬降水量は40～123mm（平年比47～94%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間はやや多かった。

### 6月下旬：梅雨前線の影響で雨の日が多い

下旬は梅雨前線の影響を受けて雨の日が多かった。21日は低気圧が対馬海峡を通過したため県内各地で3～50mmの雨が降った。22日から24日にかけては梅雨前線が対馬海峡から九州北部に停滞したため、県内各地で14～93mmのまとまった雨が降った。27日から28日にかけては梅雨前線が対馬海峡から九州北部をゆっくり南下したため、県内各地で58～140mmのまとまった雨が降った。気温は平年より高く経過したが、28日は平均気温が平年より低くなった。30日は県内すべての観測所で真夏日となり、最低気温が25℃以上の熱帯夜となった所もあった。県内各地の旬平均気温は平年より1.0～1.6℃高く、旬降水量は84～252mm（平年比43～141%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや多く、日照時間はやや少なかった。福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量と日照時間は平年並であった。

## 7月の気象概況

### 7月上旬：晴れの日が多い、3日と4日は降ひょう

上旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。3日から4日にかけては寒気が入り、また強い日射の影響で地表付近が暖められ、大気の状態が不安定となり積乱雲が発達した。このため、3日の午後は筑豊地方と筑後地方を中心に、また4日の15時頃には筑後地方でひょうが降った。10日は台風第4号が大陸東岸から黄海へ北上し、台風を取り巻く雲が九州にかかったため県内各地で1～5mmの雨が降った。気温は、旬の終わりを除いて平年より高く経過した。1日と2日は強い日射の影響で気温が上昇し、日最高気温が1日は福岡で34.4、2日は甘木で34.8となった。県内各地の旬平均気温は平年より1.2～2.2高く、旬降水量は0～20mm(平年比0～13%)と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや少なく、日照時間はかなり多かった。

### 7月中旬：九州北部地方は17日頃梅雨明け、真夏日、熱帯夜が続く

中旬の前半は曇りの日が多く、後半は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かった。11日は台風第4号が黄海に進んで温帯低気圧となり、九州北部地方には太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込んだため、県内各地で12～60mmの雨が降った。16日は梅雨前線が日本海へ北上し活動が弱まったため、福岡管区气象台は「九州北部地方は7月17日頃梅雨明けしたと見られる」と発表した。19日は太平洋高気圧に覆われたが、強い日射の影響で積乱雲が発達し山沿いや内陸部を中心に1～61mmの雨が降った。福岡では期間を通して日最高気温が30を上回る真夏日となり、また日最低気温が25を上回る熱帯夜となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.9～2.3高く、旬降水量は14～117mm(平年比10～70%)となった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量と日照時間は平年並であった。

### 7月下旬：晴れの日が多い、30日は台風第6号が接近

下旬は太平洋高気圧や日本海に中心を持つ高気圧に覆われて、暑い晴れの日が多かった。24日は対馬海峡にある前線が活動を強めながら九州北部に南下したため、福岡と頂吉では日降水量が100mmを超えたのをはじめ、県内各地で31～107mmのまとまった雨が降った。27日は四国付近にある前線の活動が活発となり、県内各地で1～23mmの雨が降った。30日は台風第6号が東シナ海を北上し、31日に対馬の北で温帯低気圧に変わった。この台風による県内の雨量は5mm程度であったが、風は福岡で23.6m/sの最大瞬間風速を観測した。31日は台風第6号から変わった温帯低気圧から九州北部に伸びる前線の影響で、県内各地で2～29mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.7～1.7高く、旬降水量は48～140mm(平年比73～213%)であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量は平年並、日照時間はやや多かった。

## 8月の気象概況

### 8月上旬：初めは雨、4日からは晴れ、9日は筑後地方で降ひょう

上旬の初めは曇りや雨となったが、4日からは晴れの日が多かった。1日から3日にかけては太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込んだため、大気の状態が不安定となり県内各地で7～38mmの雨が降った。4日以降は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、6日から8日にかけては寒気が入り、また強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、県内の内陸部を中心に5～56mmの雨が降った。9日は積乱雲が発達して、16時頃筑後地方の田主丸町でひょうが降った。気温は、旬の初めは平年より低かったが、その後は平年より高く経過した。県内各地の旬平均気温は平年差 - 0.1～+1.2 で、旬降水量は10～68mm（平年比27～321%）であった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間とも平年並であった。

### 8月中旬：前半は晴れ、後半は曇りや雷雨

中旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、後半は太平洋高気圧の勢力が弱まり、暖かく湿った空気が流れ込んだため曇りや雷雨の日が多かった。17日から19日にかけては太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込んだため大気の状態が不安定となり、県内各地で10～115mmの雨が降った。20日は朝鮮半島中部にある低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部に南下し、県内各地で2～83mmの雨が降り、柳川では18時までの1時間に57mmの激しい雨を観測した。福岡では期間を通して日最高気温が30以上の真夏日となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.2～1.0高く、旬降水量は18～157mm（平年比42～320%）であった。

福岡の旬の平均気温と降水量は平年並、日照時間はやや少なかった。

### 8月下旬：晴れの日が多く、残暑が厳しい

下旬は太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多く、厳しい暑さが続いた。21日は朝鮮半島東岸にある低気圧から伸びる前線が九州北部を通過したため、県内各地で8～71mmのまとまった雨が降った。22日、24日、27日は太平洋高気圧から暖かく湿った空気が流れ込み、また強い日射の影響で内陸部を中心に大気の状態が不安定となったため、県内各地で22日は1～52mm、24日は1～9mmの雨が降り、27日は英彦山で39mmの雨が降った。31日は台風第12号が東シナ海西部を北上し黄海に進んだため、台風を取り巻く雨雲が九州付近に流れ込み1～10mmの雨が降った所があった。26日から29日にかけての福岡の平均気温は平年より3以上も高かった。県内各地の旬平均気温は平年より1.3～2.5高く、旬降水量は17～96mm（平年比13～62%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

福岡の月の平均気温は平年よりやや高く、降水量と日照時間は平年並であった。



## 9月の気象概況

### 9月上旬：中頃は晴れ、初めと終わりはまとまった雨

上旬の中頃は高気圧に覆われて晴れたが、初めと終わりは前線の影響で雨が降った。1日は台風第12号が朝鮮半島から日本海へと進み、九州北部地方には暖かく湿った空気が流れ込んだため、県内各地で3～41mmの雨が降った。2日は台風第12号が温帯低気圧に変わり、この低気圧から伸びる前線が朝鮮半島付近に停滞したため、県内各地で1～50mmの雨が降った。3日は前線が九州北部地方へ南下したため、県内各地で12～59mmの雨となり、添田では9時までの1時間に54mmの激しい雨を観測した。4日から7日にかけては日本海の高気圧に覆われて晴れた。9日は九州北岸に停滞した秋雨前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んだため、県内各地で2～48mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より0.6～1.1 高く、旬降水量は36～128mm（平年比42～155%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

### 9月中旬：前半は曇りや雨、後半は晴れ、気温の変動が大きい

中旬の前半は前線や台風第14号の影響で曇りや雨の日が多く、後半は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。14日は大型で強い台風第14号が東シナ海を北上し、15日の夜から16日の朝にかけて九州の西海上を北上し朝鮮半島へ進んだ。このため、県内では16日の明け方から朝の内にかけて強い風が吹き、最大瞬間風速は福岡で29.0m/s、飯塚で22.4m/sを観測した。また、台風や前線の影響で13日から16日にかけて県内各地で19～68mmの雨が降った。旬の中頃は気温が高く、15日は福岡で日最高気温が33.2 まで上昇し平年より5 以上も高かった。その後、旬の終わりは寒気が入ったため気温は平年より低くなった。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～1.3 高く、旬降水量は21～70mm（平年比25～88%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はやや少なく、日照時間は平年並であった。

### 9月下旬：初めと終わりはまとまった雨、中頃は晴れ、後半は気温が低い

下旬の初めと終わりは前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、中頃は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。21日から23日の朝にかけては前線や低気圧の影響で県内各地で12～100mmの雨が降った。22日は1時間雨量が太宰府で38mm、添田で32mmと強い雨を観測した。29日から30日にかけては低気圧から伸びる前線が九州北部地方に停滞したため、県内各地で19～106mmの雨が降った。旬の後半は寒気が流れ込んだため、旬の平均気温は平年より低いところが多かった。27日と28日は寒気が流れ込み、また放射冷却も加わってこの秋一番の冷え込みとなった。県内各地の旬平均気温は平年より0.0～0.7 低く、旬降水量は31～165mm（平年比73～317%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

福岡の月の平均気温は平年並、降水量はやや多く、日照時間は平年並であった。

## 10月の気象概況

### 10月上旬：前半は晴れ、後半は曇りや雨、8日から9日にかけてやや強い風

上旬の前半は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。2日は前線を伴った低気圧が九州を通過し、県内各地で8～29mmの雨が降った。8日から9日にかけては前線を伴った低気圧が発達しながら九州を通過したため、福岡で25.0m/sの最大瞬間風速を観測し、前原と福岡で11m/s、宗像で10m/sの最大風速を観測し、県内各地で11～59mmの雨が降った。県内各地の旬平均気温は平年より1.0～1.7 高く、旬降水量は27～82mm（平年比58～169%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量と日照時間は平年並であった。

### 10月中旬：12日から13日にかけてこの秋初めての冬型気圧配置

中旬は11日と中頃は高気圧に覆われて晴れたが、その他の日は低気圧や前線の影響で曇りや雨となった。12日から13日にかけてはこの秋初めて西高東低の冬型気圧配置となり寒気が流れ込んだため、福岡地方や北九州地方の沿岸部では曇りとなった。17日から20日にかけては九州の南海上に前線が停滞したためぐずついた天気となり、20日は九州南海上の前線上に低気圧が発生し東北東に進んだ。17日から20日にかけての県内各地の降水量は17～35mmであった。気温は旬の初めは平年より高かったが、その後はほぼ平年並で経過した。16日と19日の明け方は放射冷却により気温が下がり、宗像、添田、甘木ではこの秋初めて最低気温が10 を下回った。県内各地の旬平均気温の平年差は - 0.2～ + 0.5 で、旬降水量は17～37 mm（平年比38～75%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間も平年並であった。

### 10月下旬：前線の影響で曇りや雨の日が多く、気温が高い

下旬は前線が九州付近に停滞したため曇りや雨の日が多く、福岡や飯塚の日照時間は平年よりかなり少なかった。25日は華中から対馬海峡を通り東北地方へ伸びる前線に向かって南から暖かい空気が流れ込んだため気温が上昇し、県内各地の平均気温は平年より5.9～8.1 も高くなった。この前線は弱まりながら九州北部地方を南下したため、25日は県内各地で4～12mmの雨が降った。31日は沖縄付近の前線が活動を強めながら北上したため、県内各地で5～15mmの雨が降った。平均気温は旬を通して平年より高めで経過し、県内各地の旬平均気温は平年より2.5～3.8 も高く、旬降水量は23～50mm（平年比106～273%）と多かった。

飯塚では統計開始以来10月の月間日照時間の少ない値の第2位、福岡では第3位を観測した。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間はかなり少なかった。

福岡の月の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間はかなり少なかった。

## 11月の気象概況

### 11月上旬：初めは大雨、3日からは晴れの日が続く

上旬の初めは台風第20号や前線の影響で雨が降ったが、3日からは高気圧に覆われて晴れの日が多かった。1日は台風第20号が東シナ海を北東へ進んだため、九州付近に停滞する前線の活動が活発となった。台風第20号は1日21時に九州の南西海上で温帯低気圧に変わり、2日の明け方に九州北部を通過したため、1日から2日にかけて県内各地で94～182mmの大雨が降った。宗像、耳納山、大牟田を除く県内の観測所で11月の日降水量の多い値の第1位を記録し、筑後地方を中心に床下浸水や山がけ崩れなどの被害が出た。3日からは高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、8日と9日は大陸の高気圧の中心が九州より北にあり、九州付近は弱い前線帯が停滞したため曇りとなった。県内各地の旬平均気温は平年より1.8～3.1 高く、旬降水量は94～182mm（平年比345～808%）とかなり多かった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はかなり多く、日照時間はやや多かった。

### 11月中旬：曇りや雨の日が多く、日照時間が少ない

中旬は前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間がかなり少なかった。15日は弱い寒冷前線が九州を南下したため、県内各地で1～9mmの雨が降った。16日から17日にかけては九州南岸で前線が顕在化し、四国の南海上で低気圧が発生して北東に進んだため、県内各地で1～15mmの雨が降った。19日は朝の内高気圧に覆われて晴れたため、放射冷却により内陸部を中心に気温が下がり飯塚で3.2、添田で3.7 など冷え込んだ。20日は低気圧が発達しながら朝鮮半島南部から日本海へ進んだため県内各地で11～37mmの雨が降り、福岡では22.0m/sの最大瞬間風速を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～1.6 高く、旬降水量は1～53mm（平年比4～381%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量は平年並、日照時間はかなり少なかった。

### 11月下旬：晴れの日が多い、29日は飯塚で初霜と初氷

下旬は高気圧に覆われて晴れの日が多かった。27日から28日にかけては弱い冬型気圧配置となって寒気が入り、海上で発生した雲が沿岸部に流れ込んだため沿岸部を中心に1～4mmの雨が降った。29日は明け方晴れて放射冷却により黒木で0.7、甘木で0.9、飯塚で1.5など内陸部を中心に冷え込み、飯塚で初霜と初氷を観測した。生物季節観測では福岡で27日に、いちよう黄葉を観測し観測開始から最も遅い記録となった。県内各地の旬平均気温は平年より0.3～1.0 高く、旬降水量は1～5mm（平年比3～14%）とかなり少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年よりやや高く、降水量はかなり少なく、日照時間はやや多かった。

福岡の月の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり多く、日照時間は平年並であった。

## 12月の気象概況

### 12月上旬：晴れの日が多い、9日は福岡で初霜

上旬は移動性高気圧に覆われて晴れの日が多かった。このため日照時間が平年よりかなり多かった。1日は低気圧が九州の南海上を通過したため、県の南部を中心に1～7mmの雨が降った。2日の夜から3日の明け方にかけてサハリンにある低気圧から伸びる寒冷前線が本州を南下したため、県内各地で1～8mmの雨が降った。10日は日本海にある低気圧が発達しながら北東に進み、この低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を通過したため県内各地で4～15mmの雨が降った。9日は明け方晴れて放射冷却が効いたため、最低気温は宗像で1.1、行橋で1.3、甘木と添田で1.5となり、福岡では初霜（平年より7日遅い）を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より1.3～2.8高く、旬降水量は8～21mm（平年比47～150%）であった。

福岡の旬の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年並、日照時間はかなり多かった。

### 12月中旬：初めは冬型気圧配置、終わりは九州の南海上に前線停滞、15日は内陸部で氷点下

中旬の前半は一時冬型気圧配置となって曇りの日もあったが、高気圧に覆われて晴れの日が多かった。後半は前線や低気圧の影響で曇りや雨となった。16日から17日にかけては北海道付近にある低気圧から伸びる弱い寒冷前線が九州北部を南下し、九州南岸に停滞したため県内各地で8～16mmの雨が降った。18日は弱い低気圧が九州の南海上を通過したため、県南部を中心に1～5mmの雨が降った。20日は日本海にある低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を南下したため、県内各地で1～5mmの雨が降った。気温は、旬の前半は寒気が流れ込んだため平年より低かったが、後半は平年より高く経過した。15日は明け方晴れて放射冷却が効いたため、内陸部を中心に冷え込み、最低気温は黒木で-1.6、甘木と飯塚で-1.1など、この冬初めて氷点下を観測した。県内各地の旬平均気温は平年より0.8～1.5高く、旬降水量は9～23mm（平年比71～128%）であった。

福岡の旬の平均気温、降水量、日照時間も平年並であった。

### 12月下旬：寒暖の変動が大きい、25日は飯塚で初雪

下旬は冬型気圧配置となるが多かったが、いずれも一時的で長続きせず寒暖の変動が大きかった。23日は日本海にある低気圧から伸びる寒冷前線が九州北部を通過したため、県内各地で1～5mmの雨が降った。25日は九州の西海上にある低気圧が発達しながら東へ進んだ後、冬型気圧配置となったため強い風が吹き、最大瞬間風速は福岡で21.2m/s、飯塚で20.8m/sを観測し、県内各地で1～8mmの雨が降った。また、25日は飯塚では初雪を観測した。27日の明け方は寒気の流れ込みと晴れて放射冷却が効いたため冷え込み、最低気温は黒木で-4.0、甘木で-3.0、飯塚で-2.2など県内のほとんどの観測所で氷点下となった。27日から29日にかけては高気圧に覆われて晴れたが、31日に寒冷前線が九州北部を通過した後は、再び冬型の気圧配置となった。県内各地の旬平均気温は平年差-0.6～0.4で、旬降水量は1～14mm（平年比6～55%）と少なかった。

福岡の旬の平均気温は平年並、降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多かった。

福岡の月の平均気温は平年よりかなり高く、降水量はかなり多く、日照時間は平年並であった。